

# 令和6年度 南城市幼児教育センターシンポジウム

## 第8回南城市保育研究大会

令和6年9月7日(土)

### ◎南城市教育センター シンポジウム

#### 【テーマ】「遊び」の視点でつなげる幼児教育と学校教育

～子どもの主体的な姿を育む保育者・教師の関わり～

- 知念こども園園長：熊田紫香 ○大里北小学校教諭：金城愛梨  
○琉球大学講師：宮城利佳子氏 ○南城市幼児教育センター長：與儀毅

### ◎南城市保育研究大会

#### 【演題】「子どもたちの素敵な笑顔を中心に～対話が子どもの育ちをさせる～」

【講師】学習院大学 文学部教育学科 教授 秋田 喜代美 氏

#### 【振り返り】

◎知念こども園と大里北小学校で共通して船づくり、イカダづくりをしているのを見てこどもの「声」からどんどん広がって実現するとすごくいい経験になっているなあと感じ、そういう保育をしていけたらなと思った。

- ・はじめの100ヶ月の育ちビジョンは初めて知った。(ウィルビーイングも)
- ・探索をすることで探求に繋がっていくんだと知った。0歳児でも探求できるのだと驚いた。
- ・子どもの質問にすぐに答えを教えるのではなく、子どもに考えさせていくようにしていきたい。

◎子どもたちが好きな遊びを展開させ、自分たちで考えながら時には保育士の助言をもらいながら一つの物をみんなで完成させることの凄さ、大切さを改めて感じた。アイデアを与えることも必要だが、子どもの考え、声をもっと大切にしていこうと思った。

・色々なものに興味を持ち、探求する子どもたちによく「汚れるよ」「危ないよ」とすぐに行ってしまうが、その言葉で子どもの興味・関心・成長を止めているかも？と反省点が見つけられた。ある程度見守りながら、子どもと一緒に成長していけたらなと感じた。

◎子どもの声を聞く事で、子どもの発想がありこれから新しい事を一緒にできる。また一人の子どもの声からクラス全体で協力して一つの物が出来るという事がわかり、子どもも保育者も一緒に楽しめるなど思った。

・全て保育者が答えを出すのではなく、子どもの主体性を意識し考えたことを発言させ、子どもたちに探究させることが、大事だとわかった。テーマを決めそこから子どもたちと考える楽しい保育をしていきたいこれからの保育でまずは子どもの声を聞き、一緒に考え楽しんで保育をする。そして子供の考えた事に対して肯定し子どもたちが色々な事に探究できるような言葉がけ、環境を作っていきたい。

◎一人の子どもが船作りをして、周りの子どもも集まり失敗しながらもまた作った事や動かなかったことに気づいて、自分達で海なら波がある事に気づいていた。グループでの船作りで仲間意識が芽生え協力していく姿などもみられ、大人がすぐに答えを出すのではなく子どもの探究心を常に見ながら環境を整えてあげる事が大切なんだと感じました。プランターや種等、自分達が植えたものを観察して興味を持って調べていたので、子どもの声を聞いていく保育をしていこうと思いました。

◎子どもの声に耳を傾けて保育を進める。「どうしてこうなったのかな？」と問いかけて考えさせる声かけをする。

・探究することの大切さを改めて感じた。教える、知らせることよりも保育者として一緒におや!!まっ!!と共感していくことが必要だと思った。

・用具の使い方も全て決めるのではなく、子どもたちがどんな風に使うのか?どんな遊びに発展するのか、見守る事も今後考えていきたい。環境構成を考える時の工夫もしていきたい。

・何でだろうね?どう思う?と問い返す事で対話を深めたり、子どもの探究心を深めることへ繋げられる対応を心掛けたい。

・先を行きすぎない。答えをすぐに出さない。一緒に考え悩み寄り添っていけるようにしたい。

・子どもの気づきや発見、失敗などのエピソードが見える化や保護者やクラス以外の先生と共有することも大切だと思った。取り組めることからやっていきたい。

◎子ども達の探究心をくすぐるような「何でだろう?」というつぶやきを大切に、保育者がすぐに答えを出すのではなく「何でだろう?」と一緒に考えていき、状況に応じてきりげなく、ちょこっと環境をプラスし、子どもたちの興味や声を大切にしていきたい。

『保育者が1歩先に行かない』

◎金城先生の授業では、保育園で経験したことを子どもたちから引き出し活かされていた。子ども達も楽しんで授業に取り組めるので、勉強楽しい、学校行きたいと感じている子が増

えてきているのではないかと感じた。「イカダづくり」と「大きなかぶ」は国語・算数・生活・図工の授業と繋がっていて「すごい！！」と感じた。

・探究心を大事に！！子どもの「なぜ？」「どうして？」と一緒に考えることが大切。大人はすぐに答えをだしてしまうが、「どうしてだと思う？」と逆に質問し一緒に考える。保育の環境構成も(道具に配置等)大事であった。「コレはどんなして使うのかな？」と子どもたちに考えさせることが大切であった。子どもたちの発想は私たち保育士の学びへとつながるので、たくさん問いかけ、考える力を育てていきたいと感じた。

◎一人の子の船作りから、クラスみんなに広がり最後には海で船に乗れたのはとってもいいなと思いました。何ヶ月も取り組める環境づくりは凄いと感じました。子どもの声を聞き逃さないようにしたいと思います。保育者だけの意見ではなく、子供たちに色々決めてもらえるような余裕を持ちたいです。そして子供にゆだねられるようにしていきたい。知識を持っている大人が答えたらそこで探究心が終わると聞いてそうだなと思った。ただつついやってしまう事なので気をつけていきたいです。

◎知念こども園の船作りでドキュメンテーションで船作りの様子、家庭を保護者の見えるところで掲示する事で、保護者の方からも「何か手伝えることはないか？」と声かけがあった点が良いと思いました。大里北小の1年生と幼稚園の失敗の多さの違いなど比べるところがあり成長過程を見れた。

・子ども達の探究大切。子どもの思いや願いをかなえるだけではなく、さらに高めたり深めたりできるよう、子どもたちとの会話「なんで？」と聞かれた時「なんでだろうね」「どうしたらわかるかな」と会話の中で他の子たちと繋げたり、その子の考えを待つ。

・子どもにどのような遊びが必要か、ホームセンターで色々な素材を買って子どもたちが色々なアイデアで遊んでいた。

◎子どもたちの探究はとても大事な事だと学んだ。松の実こども園の子ども達も自ら遊びを考え、工夫し試行錯誤を繰り返している姿を見ていると、子どもの発達に重要な事だと学んだ。保育士は子どもたちがもっと探究したくなる環境を整え、保育士も子ども達と一緒に遊びを楽しむ事も大切だと感じた。

・ペットボトルでイカダを作ったり、お金をかけるだけでなく身近な物で製作したり遊びに活かすのは良かった。チューリップをただ育てるだけでなく、枯れた後もチューリップの花の絵を描いたりして創意工夫があっていいアイデアだと思った。子どもと一緒に考え、答えを与えない事も大切。

◎一つの遊びから探究心がくすぐられるような遊びに次々と展開する。乳児クラスでも出来ることはある事を知ったので、実践できたらいいなと思った。その為に保育者として子ど

もの目線に立って、疑問や何を感じているのかキャッチできるようにしていきたい。

## 令和6年度 南城市幼児教育センターシンポジウム・第8回南城市保育研究大会



©南城市幼児教育センターシンポジウム：知念こども園・大里北小学校の実践発表 ©第8回南城市保育研究大会「子ども達の素敵な笑顔を中心に〜対話が子どもの育ちを支える〜」講師 秋田喜代美 氏【令和6年9月7日（土）13:00～16:00】